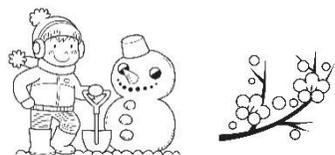


1月 給食だより

流山市立
八木北小学校
平成 29 年 1 月



新しい年を迎え、3学期もスタートしました。あと少しで立春ですが、まだ寒さが厳しい時期です。冬休みの間に、新年の目標を7月分立てた人も多いのではないのでしょうか。新しい年も皆さんにとって素晴らしい年になるよう、健康に気をつけて元気に過ごしたいですね。

時代と共に変化する学校給食

1月24日から1月30日までは、全国学校給食週間です。これは、全国で学校給食の意義や役割について考え、理解や関心を深める週間です。この機会に学校給食を見直してみましょう。

明治 22 年

山形県鶴岡町（今の鶴岡市）私立忠愛小学校で貧困児童を対象に学校給食が始まりました。その頃は、今のように食糧が豊富でなく、貧しくて食べられない子どもたちのために行われていました。その後、第二次世界大戦中、一時中断されていましたが、子どもたちの健康や体格の向上のために再開されました。

昭和 21 年

戦争は終わりましたが、食糧難で食べる物がない子どもたちのために、12月24日から東京・神奈川・千葉でも試験的に開始されました。この数年後、この日を記念して（12月24日から冬休みに入ってしまうため1ヶ月後の）1月24日を給食記念日とし、1月24日から1週間を「全国学校給食週間」と制定しました。

昭和 22 年

子どもたちを想う色々な人たちの気持ちで再開された給食だったのです。

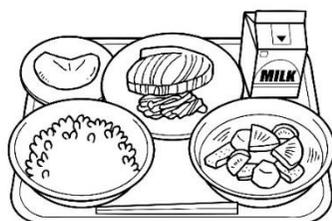
全国都市の児童約300万人にアメリカの民間団体の援助により、ミルク給食（脱脂粉乳）などの学校給食が実施されました。

昭和 27 年

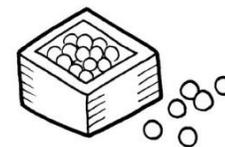
4月、完全給食が全国すべての小学校を対象に実施されるようになりました。

現在

和食・中華・洋食とメニューも豊富になり、食べるだけの給食でなくなり、望ましい食習慣や食に関する実践力を身につけたり、地域の食材や食文化を学んだりする教材として活用される給食に時代と共に変化してきました。

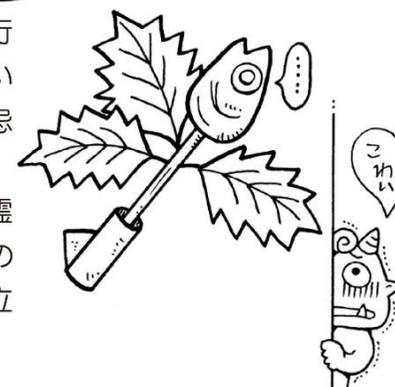


節分

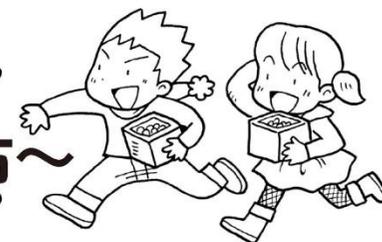


節分は立春の前日で、冬から春への季節の変わり目の行事です。もとは、立冬や立夏、立秋などの前日も節分といわれていました。この節分の日には季節の変わり目に物忌みをして無事に過ごすという習慣がありました。

「鬼は外」のかけ声とともに、豆をまくのは、豆にある「霊力」をもって、災いをはらう意味があります。また、この日には、ひいらぎの枝にいわしの頭を刺して門や軒下に立て、邪気をはらうという習慣もあります。

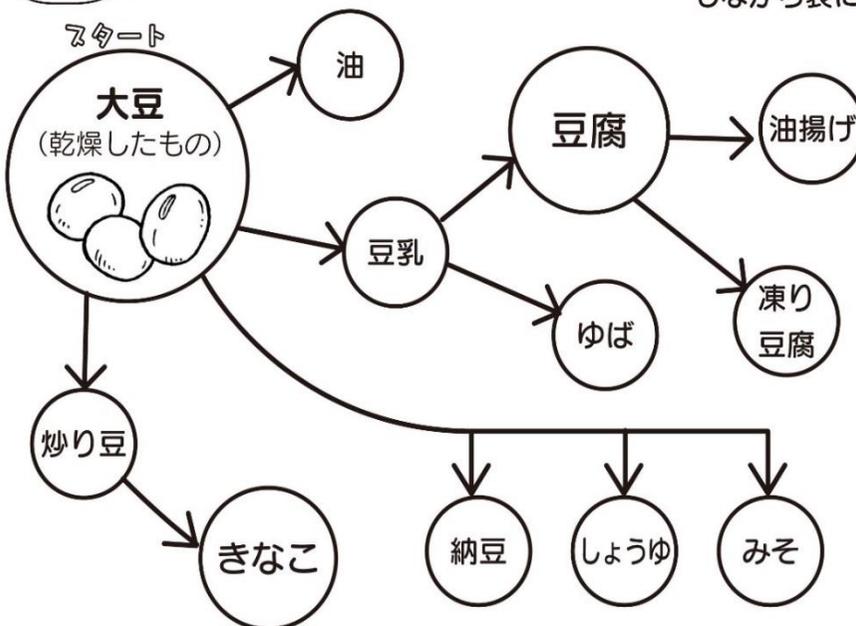


鬼は～そと～
福は～うち～



大豆が変身していくよ！

★変身するためには、どんな加工が必要なのか、加工方法の例を参考にしながら表に書いてみましょう。



加工方法の例

- ・水につける
- ・煮る
- ・発酵させる
- など

大豆はさまざまな加工によって、いろいろな食品に変化します。昔からわたしたちの食生活に欠かせない大豆製品を調べてみましょう。